

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

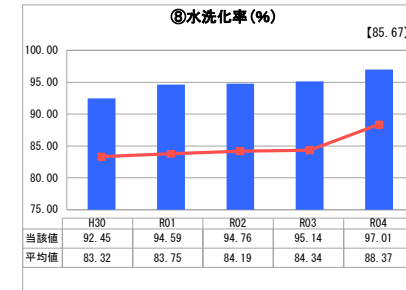
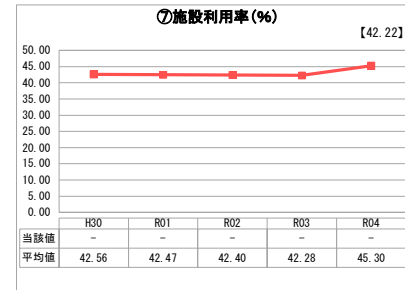
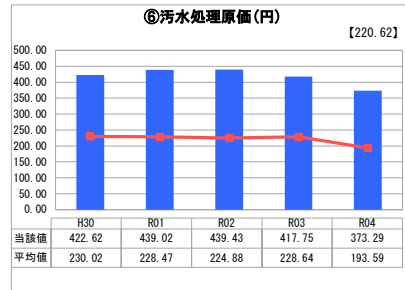
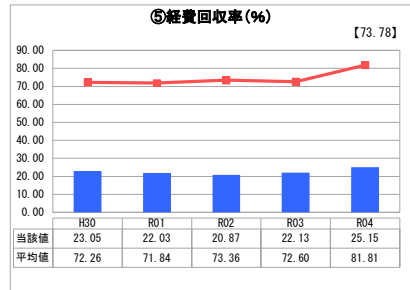
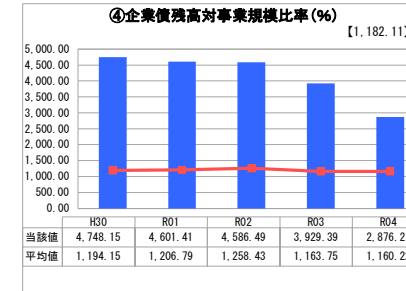
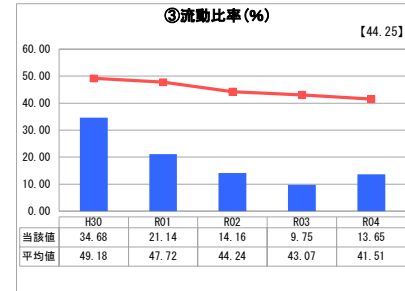
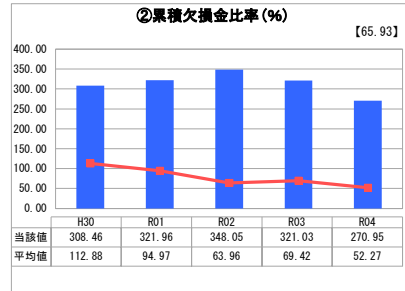
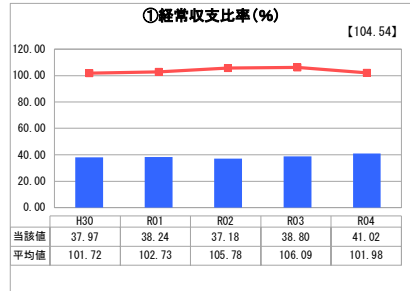
北海道 札幌市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	67.53	0.51	100.00	1,371

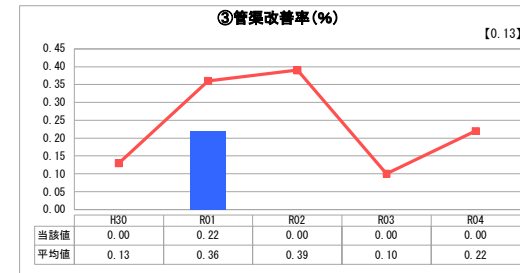
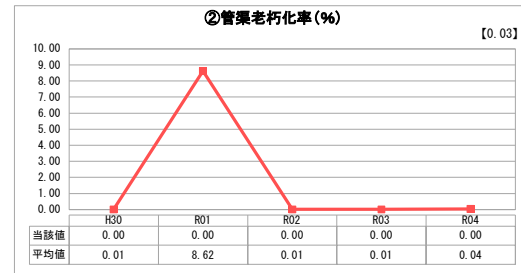
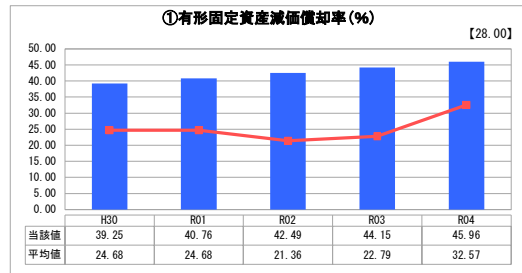
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,959,512	1,121.26	1,747.60
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,042	2.55	3,938.04

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市では、特定環境保全公共下水道事業についても、公共下水道と同じ下水道使用料を採用しており、特定環境保全公共下水道事業のみでは、経営の健全性・効率性を判断することはできない。公共下水道も含んだ本市の下水道事業全体では、経営の健全性・効率性はおおむね良好な状態を維持できている。

### 2. 老朽化の状況について

特定環境保全公共下水道事業は、平成3年度に事業を開始しているため、標準耐用年数を超過している管路はない。しかし、公共下水道を含む本市の下水道事業全体では、今後、下水道施設の老朽化が進んでいく見込みであることから、可能な限り延命化を図りながら、下水道施設の更新を進めていく必要がある。

### 全体総括

本市の下水道事業に占める特定環境保全公共下水道事業の割合は、人口比で0.5%、面積比で1.0%と公共下水道事業に比べて極めて少なく、特定環境保全公共事業のみで経営の効率性・健全性を判断することはできない。また、老朽化した管路はないが、本市の下水道事業全体では、今後、施設の老朽化が進んでいくことから、施設の更新費用等が増大し、経営の効率性・健全性を悪化させるおそれがある。このため、令和3年度～7年度の事業計画と財政計画を定めた「札幌市下水道事業中期経営プラン2025」に基づき、事業を計画的に進めるとともに、安定した経営に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。